

2018年6月14日

関係各位

野村ホールディングス株式会社
コード番号8604
東証・名証第一部

海外子会社のシステムに対する不正アクセスについて

機関投資家向けの委託電子取引を取り扱う当社の海外子会社インスティネット・ヨーロッパ・リミテッド（以下「同社」）において、マルウェア（不正・有害な動作を行う目的で作成されたソフトウェア）による一部のデスクトップ・ネットワークへの不正アクセスがあったことが、2018年6月4日（米国東部標準時）に判明いたしました。

同社を含むインスティネット関連各社（あわせて以下「インスティネット」）は、野村グループとサイバーセキュリティ会社など専門家の協力の下、ただちに状況の把握と解決に向けた調査と対策を開始いたしました。また、司法当局を含む関係当局には適宜報告を行っております。

現在も調査中ではありますが、現時点におきまして、インスティネットのトレーディング・システムへの影響がないことは確認できております。また、デスクトップ・ネットワークへの不正アクセスが続いているような状況がないことも確認できており、同社は通常通り営業を行っております。

今週になり、調査の過程でインスティネットの顧客情報が流出した可能性が高まったことから、本ニュースリリースを公表いたしました。

なお、インスティネットのシステムと他の野村グループ各社のシステムは互いに独立しており、野村グループ他社に影響は出ておりません。

関係者の皆さまには、ご心配をおかけいたしますことを、心よりお詫び申し上げます。

以上